

丸亀市教育委員会会議録

1 日 時 令和7年10月24日（金）
午後1時30分～午後2時10分
場 所 市役所3階 303会議室

2 出席委員

委 員	井 下 由 美
委 員	松 岡 舟
委 員	立 石 陽 志
委 員	久 保 博 紀
教育長	末 澤 康 彦

説明のため出席した者

教育部長	山 下 友 通
総務課長	土 井 節 子
文化財保存活用課長	東 信 男
総務課副課長	後 藤 幸 功
文化財保存活用課副課長	坂 田 憲 亮

書 記 総務課庶務担当長 小野佳代子

3 傍 聴 なし

4 議 題 なし

5 報告事項

丸亀市塩飽本島町笠島伝統的建造物群保存地区保存活用計画策定及び選定40周年記念事業について
教育委員会承認「共催・後援」の状況

6 会議録署名委員の選任

丸亀市教育委員会会議規則第13条第3項の規定に基づき、次の2名を会議録署名人に指名す

る。立石陽志委員、松岡舟委員。

7 議事の大要

午後 1 時 30 分 開会

〔教育長〕

開会にあたり、昨今の状況について 2 点話をする。

まず 1 点目、2 学期が始まり、もう半分が過ぎた。様々な教育活動を展開されている中で、10 月 18 日に広島の島民運動会があった。広島の島民運動会の中に、広島小中学校も参加をするという形を取っており、出席をした。4 月の再開校のときは、2 家庭 4 名、7 月に中学校 2 年生が 1 名転入して、現在、中 2、中 1、小 5 が 1 名ずつ、小 2 が 2 名の 5 名が在籍している。様子を見ると、非常に明るい表情で一生懸命参加しており、表情が本当に印象的であった。教職員の関わり、指導の賜物であると同時に、地域の方々の支援があつてのことだと思った。運動会では地域の方々も楽しみ、大変盛り上がった。子どもたちへの温かいまなざしを見ていると、これがチーム広島だと感じたところである。

教育委員会としては、再開校にあたり、学校の施設、設備、教育内容、人員配置等、子どもたちにとって、よりよい教育環境を考えながら整えてきた。半年経ち順調な様子を見て、非常に安堵したところである。事務局の皆さんに感謝申し上げる。そして、地域の方々にとっても、学校が再開するということの大きさを感じた。

2 点目。先日、成人式の実行委員会があり、今年の実行委員として 12 名の若者が委員として参加をしてくれている。対面が 3 名、オンラインが 7 名であった。今回のテーマについて議論していたのだが、その議論の様子が非常に頼もしいなど、うれしく思った。教育の成果、効果というのは、非常に評価が難しいが、そういう成長した若者の姿を見て、非常に喜ばしく思った。それと同時に、大体 1,000 人いる世代の中には、そういう 12 名もいると同時に、様々な状況の人がいるのだろうと思った。

就学前の教育施設から小学校、中学校と、社会教育も含め広い意味でみると、教育委員会として担っていることをしっかりと認識し、改めて「自立と共生」、「他を想い、自らを磨き、共に伸びる」子どもの育成に取り組んでいかなければと、決意を新たにしたところである。

8 報告事項

丸亀市塩飽本島町笠島伝統的建造物群保存地区保存活用計画策定及び選定 40 周年記念事業について

〔文化財保存活用課長〕

保存活用計画策定の目的としては、本計画は笠島地区における歴史的景観および伝統的建造

物群の保護と活用を計画的かつ持続的に推進するための基本方針を定めるものである。主な目的は以下のとおりである。

まず 1 点目、「文化財保護法に基づく保存と活用の推進」、笠島地区の貴重な歴史的資源を、将来にわたって守り活かしていくための指針を示す。

次に 2 点目、「地域の文化的価値の継承と発信」、地域の歴史や文化を次世代へ継承し、広く発信することで、住民の理解と誇りを育む。

3 点目、「観光・教育・地域振興との連携」、文化財を活用した観光資源の整備や教育、地域づくりとの連携を図り、地域の活性化に寄与する。

4 点目、「文化庁による認定取得の推進」、保存活用計画の策定により、文化庁の認定を受け、国の補助制度の活用や事業推進の基盤を整える。

保存計画策定の経緯であるが、昭和 59 年に保存計画を策定し、以来 40 年が経過している。資料 3 ページ、笠島地区の概略を説明している。まず位置図の赤いしるしがあるところで、本島の北東部に位置する笠島集落という集落である。ここに関しては、小さな港町で、北側に天然の良港が開けており、西東南側は丘陵に囲まれている。集落内には狭い通路が網のように通っており、このうち集落の東寄りに南北に走っている東小路という道と弓なりに直行したマッショ通りに面して、本瓦葺きで上階を塗屋とし虫籠窓や格子窓を設けて、下階は腰窓付き雨戸構えと出格子・窓格子を組み合わせた表構えを特徴とする町屋形式の建物が軒を並べている。枝分かれした道には、長屋門形成の建物もある。港町としているが、海側に面して表を向けるのではなく、道側に面して表を設けているのが、町並みの特徴となっている。笠島地区は塩飽大工が建てた建物として、さまざまな工夫が見られる。

選定の効果としては、廻船業で活躍した塩飽水軍の本拠地であった本島には、かつて他の集落にも立派な家屋が存在したが、現在は維持できなくなり取り壊したものが多い中、笠島地区では、過疎の島でありながら、伝統的家屋の維持ができ、観光客や人づくり石垣プロジェクトでも小学生 6 年生が見学に行っているような形で、学習の場としての利用もされている。

4 ページ、伝建地区のあゆみであるが、昭和 50 年から取り組みをはじめ、写真を見ていただくと、選定前と選定後の整備状況の写真がある。選定前は、土壁が露出したり壊れたり、電柱が立っているが、選定後は綺麗に漆喰で修復され、電柱を裏通りの方に移設するという形で景観整備を行っている。

5 ページ、主な事業としては、文化庁の事業がある。これは伝統的建造物群保存地区であるので、伝統的建造物に選定された約 77 件は保存修理をしている。あと非伝建といって、伝統的建造物にはなっていない建物については、周囲との景観を整えるということで、伝建風の建物に修景するものが 17 件、防災施設整備として、防火水槽を設置しており、ポンプとかを保管する防災倉庫の整備を 1 件行っている。これが文化庁の事業として、選定されてから行っている主な事業である。

また、旧建設省の事業として、荒れた空き地があったところに関しては、ポケットパーク化する整備をしている。ごみ集積所に関しても、昔、本島にあった制札場という幕府からのお達しなど掲げる札場があったが、それを模した形のものを整備して景観に配慮している。また道や駐車場、公衆トイレの整備なども行っている。

6ページ、公開建物が3件、まち並保存センター、ふれあいの館と文書館がある。その中で、まち並保存センターの入場者は大体年間1,500人から2,500人の観光客が訪れる観光スポットとなっている。

今年も開会されているが、瀬戸芸の会場となっており、期間中は非常に多くの方が来られる。また備讃諸島「石の島」のストーリーが日本遺産に選定され、その構成文化財として関連づけた活用をする機運が盛り上がっている。宿泊施設も地元NPOに管理運営していただいている、民宿の経営やイベントなどいろいろと行っている。

昭和59年に保存活用計画を策定して以降40年が経過しているが、現状との乖離や新たな課題が顕在化しており、特に過疎化や空き家の増加など、計画の見直しが必要となってきた。平成30年の文化財保護法改正により、保存活用計画の認定制度が創設され、令和7年度に新たにその活用計画を策定中である。

今後の保存活用計画の策定スケジュールであるが、8月28日から審議会を開催して、骨子案の審議をし、10月10日に第3回審議会として委員の先生方に現地視察をしていただいた。10月から11月で計画素案を作成し、11月には第4回審議会を開催して、計画の素案を提示して、それを修正する。12月2日に政策会議にかけて、12月10日に議会説明、それから教育委員会の方に素案説明をさせていただければと思っている。1月から2月にパブリックコメントを実施し、2月に第5回審議会を開催して、計画原案の承認、3月に教育委員会や府議への付議をし、それが終われば文化庁長官の認定申請をし、認定がおりれば関係資料を整えて印刷製本を経て、公表したいと考えている。

〔委員〕

計画を策定されて、文化庁に申請されることがあるが、この文化庁での事務手続きの日程上、承認されるにはどれくらいの期間が必要か。

〔文化財保存活用課副課長〕

大体3か月から4か月で承認になると伺っている。

〔教育長〕

今回、保存活用計画を策定ということであるが、昭和59年に保存計画策定、以降40年経過し、文化財保護法の改正により保存活用計画の認定制度が創設となったのだが、いつまでにと

か、どの期間で1回策見直すなど、そういうようなものは法的にあるのか。

〔文化財保存活用課長〕

基本的にはない。今まででは保存だけのことやっていたが、この度、活用も含めてということなので、活用の補助金等もいただこうと思うと、やはり策定していないとなかなか難しいことがあるので、活用含めた計画の策定を行う。

〔文化財保存活用課副課長〕

平成30年の文化財保護法の改正により、現在の策定している保存計画というものを、保存活用計画に読み替えて運用をしているところである。1つは活用というところが入ってきたこと、それから本年度笠島地区の40周年を迎えたこと、それと現在、伝建地区の中には伝統的建造物があるが、そちらの物件の情報データを一通り整理ができたということで、今年度策定の方を進めているところである。

〔委員〕

笠島は本当に感じのいい町で、丸亀の財産をいい形で活用してくれたらいいなと思う。

1点目は今、瀬戸芸も開催されているが、この笠島への入場人数はどの程度あるのか。また、地域の方の盛り上がりはどうなのか。市の方は大事にしていきたいが、やはり地域の方の協力、また盛り上がりも必要だと思うので、それを教えてもらいたい。

2点目は、笠島に行く場合に、本島港から距離が2キロぐらいあって、それが1つのネックだと思う。他の市町の文化財に比較しても、本当に遜色ないぐらいと思うが、交通の部分で少し不便があるのかなと思う。例えば、フェリーは無理だと思うが、客船だけでも本島港に寄り笠島港に寄るというのができれば良いと思う。客船も1日3便ぐらい行っていると思うが、期間限定でもいいので、いろいろな工夫があれば面白いなと思った。可能であれば検討してもらいたい。

〔文化財保存活用課副課長〕

1点目、今年度の入場者数については、現在、瀬戸芸が開催されており、この地区が1つ会場になっている。正確な人数の把握はまだできていないが、現在の感じでいえば、大体、毎年の2倍ぐらいのお客さんが来られているということは聞いている。コロナの時に来場者数が一旦落ち込んだのだが、今年度についてはコロナ前まで戻っている。

地域の盛り上がりについては、現在、保存計画の中で示されている内容は、昭和60年の状況に基づいているので、かなり状況が変わってきている。例えば、空き家の増加や地区人口の高齢化というような問題も顕在化してきている。そういう中で、新たな課題について、今後どう

といった取り組みをしていくのかという方針をここでお示しさせていただいて、地元、市、関係する機関も含めて、推進体制を取りながら進めていきたい。

それから、次の交通の便については、泊の船着き場からは少し距離があるので、やはり行きづらい面もある。今、徒歩や自転車等の手段が一般的であるが、笠島の北に小型の船が着ける船着場が整備をされているので、今後についてはチャーターで直接来ることができるなど、大型船から乗り換えて直接笠島へ来るというような運用の仕方というのも、今後広がっていくと思う。

そういうことも含めて、今、審議会の中でも意見をたくさんいただいているので、今後そういったことに対応できるように、進めていくための対策は考えていきたい。

〔文化財保存活用課長〕

コロナ禍のとき減っていたということだったが、かなり持ち直している。瀬戸芸のときと普段のまち並センターの入場者数はかなり差があったが、人づくり石垣プロジェクトで小学生の子どもたちが見学してくれることによって、瀬戸芸の期間と近いぐらいの人が、保存センターの方に行っていただいている。子どもたちが本島に行って、親御さんにお話されて、また行ってみたいという話をしていることは非常にありがたい。

〔教育長〕

私も以前はあまり行く機会がなかったが、行ってみると本当に素晴らしい町並みで、また勤番所では子どもたちの教育に資するような話を聞いて、島の人たちも大切にしているというのは、子どもたちにとってぜひ触れさせたいなと思う。大きな意味で、活用ということから、またそれが保存ということに繋がっていけばいいなと思う。

それでは続いて、選定 40 周年記念事業について説明をお願いする。

〔文化財保存活用課長〕

選定 40 周年記念について。最初に 40 周年記念シンポジウムについては、11 月 16 日 13 時から 16 時 20 分、ひまわりセンター 4 階研修会会議室で、笠島地区の方もオンラインでつないで行う。内容は、「住まなくてもできること、ここで暮らす人たちの立場から笠島のこれから考える」ということで、登壇者 4 名によるパネルディスカッションを予定している。

内容としては、第 1 部が報告、笠島の現状、重伝建地区の理念と制度、事例報告。第 2 部では趣旨説明、今後の笠島のあり方についてパネルディスカッションや質疑応答をしていきたいと思っている。

その次に、高校生フォトフェスティバルを現在実施している。これに関しては、市内の高校生、丸亀高校・丸亀城西高校・大手前高校の延べ 13 人が、県内出身の写真家である宮脇慎太郎

氏の指導のもと、塩飽諸島と笠島地区の歴史的町並みを舞台に、写真を通じて地域の魅力を発信する取り組みである。作品は、瀬戸内芸術国際期間中、笠島のまち並保存センターで展示している。また、11月にはマルタスで展示を行う予定にしている。

また、瀬戸芸コラボイベントとして、選定40周年記念祭を10月25日、11時半から16時半に行う。笠島地区のお祭りで雰囲気を盛り上げようということで、内容としては、三重県の方から伊勢大神楽をお呼びして実演していただいたり、千歳楽という太鼓台のお披露目や大学生による笠島の町並みの案内等を考えている。

また、企画展示として、パネル展示「笠島40年の歩み」を瀬戸芸期間中の10月4日から11月9日まで、公開施設の1つであるふれあいの館で実施している。

教育委員会承認「共催・後援」の状況

〔総務課副課長〕

今回報告の期間は令和7年9月9日から10月14日までで、後援申請が23件あり、芸術、文化又はスポーツの振興、社会教育の向上など市民福祉の増進に寄与すると認められることから21件を承認、2件を不承認としている。このうち新規の申請は6件。

- ① No.07101「第3回市民が講師！みんなでふくし専門講座」。福祉works MANMAREが主催する公開講座で、「自主防災でコミュニティづくり」をテーマに、10月12日、丸亀市市民交流活動センターマルタスで講演会が行われた。
- ② No.07102「Christmas Craft Day」。福祉works MANMAREが主催するステージイベントやクラフトワークショップのイベントで、12月14日に丸亀市市民交流活動センターマルタスで開催される。参加費は無料。
- ③ No.07105「こども防災士になろう！」。こども防災教室プラスが幼稚園から小学生とその保護者を対象に、クイズやワークショップを通して、防災について考える防災教育のイベント。10月25日、11月8日に丸亀市民体育館で開催。参加費は一人500円。
- ④ No.07109「ほんのもり号クルーズイベント」。こども図書館船事業実行委員会が、丸亀市在住の中学生以下の親子を対象に、さぬき広島において広島一周クルーズや青木石を使ったストラップづくり、日本遺産構成文化財の見学を行うイベントで10月20日に開催された。
- ⑤ No.07114「赤い羽根共同募金街頭募金協力隊員募集」。丸亀市共同募金委員会が市内の小中学生を対象に共同募金活動のボランティアを募集するもので、10月11日、26日、11月8日、29日に市内大型スーパー各所で開催される。
- ⑥ No.07116「大人と子供のためのクリスマスコンサート」。Champ de Fleurs（フルートの会）が主催するコンサートで、12月6日に栗熊コミュニティセンターで開催。入場料は無料。

なお、不承認の1件目は「キッズマネースクール・こども投資チャレンジ」。金融教育については教育委員会が率先して推進するべきものではないとの判断から教育委員会が共催又は後援を行うことが不適当なものとして不承認とした。2件目は「SDGsをもっと知ろう オンラインこどもフェス2025」。会員の勧誘につながる恐れがあることから不承認とした。

9 閉会

午後2時10分